

ゆうしの里山は、「関わるすべてが一緒に育ち合えたら！」という共通の想いを持ち、皆様のご協力のもと運営されています。

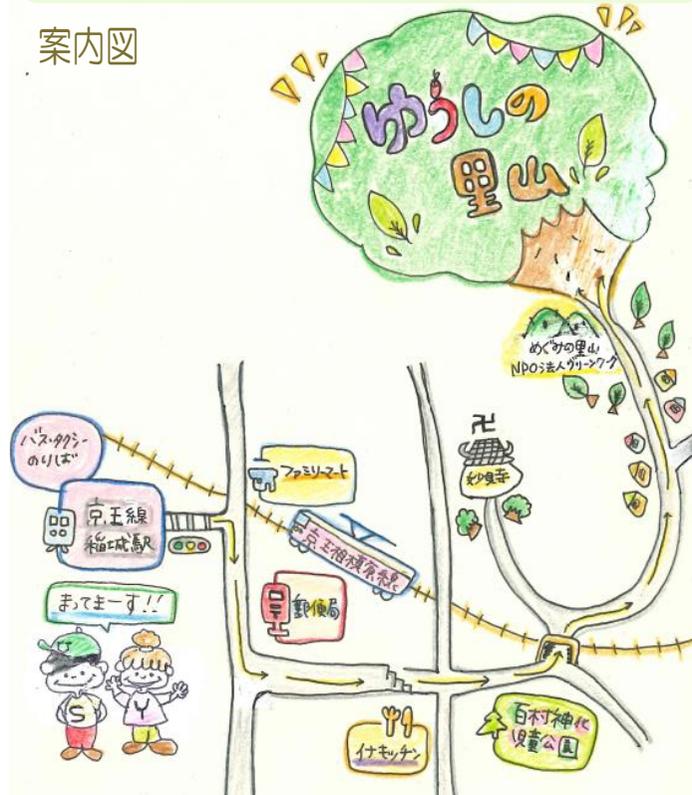


里山を育てる

稲城の里山は奥山を持っていません。そのため、生態系の維持や肥沃な土地としていくためには、人による管理が欠かせません。江戸時代には禿げ山だったそうですが、先人達が少しずつ管理し、作物を豊富に生み出すことができる土地になったといわれています。高度成長期以降、企業による放置や地主さんの高齢化に伴い荒廃が進みました。

私たち東保育会は、そんな荒廃の進んだ部分を2020年5月に買い取り、整備を進めてまいりました。まだまだ始まったばかりではありますが、かつての美しき里山を取り戻して行けたらと職員総出で奮闘しています。子ども達の安全や衛生環境を考慮しながら自然と共存することに幾らかの難しさも覚えています。この都心に最も近い里山を復活させ、未来へ残したいと思えます。

案内図



-お問い合わせ窓口-

社会福祉法人東保育会

所在地：〒206-0812 東京都稲城市矢野口 2065

電話：042-377-6249

地域の方々との取組み

私たち東保育会は2016年から、NPOいなぎ里山グリーンワークの皆様にお手伝い頂き、園児や児童と自然教育・森あそび・農作業体験を中心に活動を重ねてきました。ほかにも多くのご近所の皆様とともに自然教育を行ってまいりました。これからは、この「ゆうしの里山」とともに、より一層地域の方々と協力し、またつながりを持ち、この恵み多き里山を守ってまいります。

名称の由来

「ゆうし」は漢字で「遊ぶ子」と書きます。

明日を担う子ども達がこの里山で、生きていくために必要なさまざまな能力を身につけられるよう、子ども達の遊びにこだわりたいという思いからこの名称を採択いたしました。

「遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけむ、遊ぶ子供の声聞けば、我が身さえこそ動かるれ。」（梁塵秘抄）



里山と育つ

東保育会の環境教育



東保育会

松葉保育園

大丸ゆうし保育園

中島ゆうし保育園

本郷ゆうし保育園

本郷児童館・学童クラブ

ゆうしの里山にようこそ

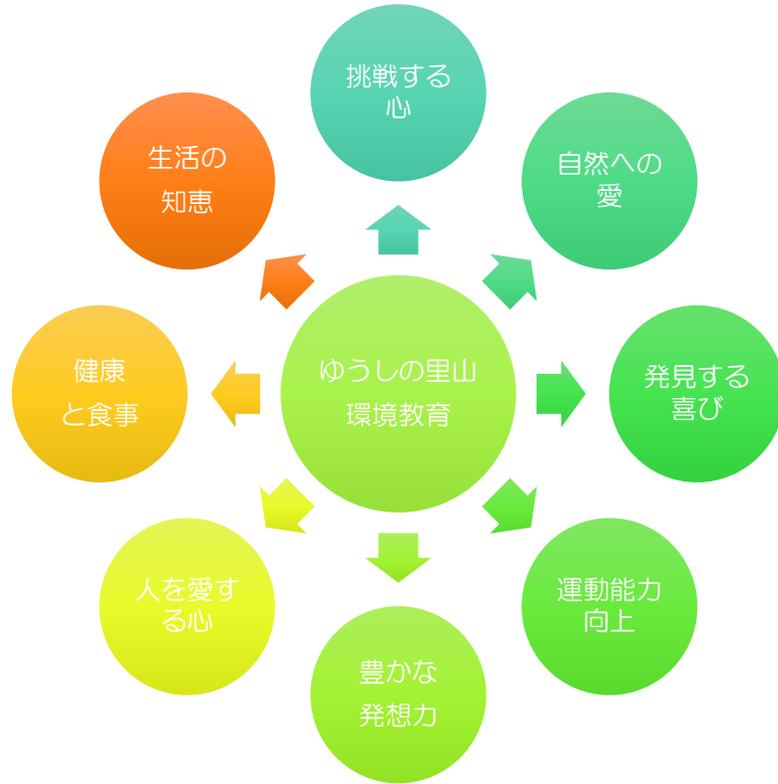


都心からほど近いこの地には、先人たちがのこしてくれた豊かな自然や実りがあります。わたしたちと子ども達は、この素晴らしい財産をもっともっと活かし、里山も人も一緒に育っていきける環境を造ってまいります。



里山と育つこども

持続可能な社会を作り出すために、私たちの保育や育成の仕事は元々大きな役割を担っています。保護者が安心して働ける環境を整えるだけでなく、子どもたちに「今、何を体験させてあげることができるか」はとても重要なことととらえています。園舎だけでは与えることのできない本物の自然を十分に用いた環境教育で、子どもたちの豊かな未来をサポートします。



より豊かな未来のために

私たちが目指すのは、単に年に数回子どもたちに収穫の喜びを味わせるというものにとどまりません。この活動は、もっと多くの人々、もっと幅広い分野に影響を及ぼす、「**持続的でより良く豊かな世界を生み出していくための第一歩**」と考えます。この里山で過ごし、遊び、働き、観察し、学び、感動し、伝え、繋がり、協力しあう時、私たちは何を心得るでしょうか。子ども達だけでなく、職員や保護者、地域の方々、はたまたこの活動を見守る世界中の方に少なからず良い影響がもたらされるに違いありません。

保育と里山

これまでも保育では、子ども達が自然と関わった時、その驚きや感動や不思議さに対する気持ちを重要視してきました。保育者（職員）もその気持ちを受け止め、自然に関わって楽しかったことを絵に描いたり、工作をしたり、アートの世界に表現してきました。

しかし、私たち東保育会ではそこで終わるのではなく、感動したこと、発見した不思議さを“**文化的実践**”につなげていくことをより重要なことととらえています。

子ども達の「これってなぜなの?」「こうしてみたらどうなるの?」というような不思議さや疑問を、協同的な学びや、プロジェクトにつなげていくこと等「もう一步踏み込む姿勢」をもって保育に取り組んでいます。この文化的実践は、小学校入学後の生活科や総合学習のようなアクティブラーニングにつながっていきます。幼児期におけるこのような経験で培われるこの基盤づくりに、「ゆうしの里山」がより一層活用されることを期待しています。



東保育会は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SDGsとは

国際連合は、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。17の目標からなる「持続可能な開発目標」のことです。国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択したアジェンダをもとに、2015年から2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くします。